

Mis días en México

1年間のメキシコ生活はあっという間に過ぎ、先日、無事に帰国しました。今回のレポートでは、7月の出来事と、この1年間のメキシコでの生活を振り返りたいと思います。

1. オアハカ旅行

7月下旬に念願だったオアハカ州を訪れました。オアハカは「グルメの街」としても知られており、おいしいものがたくさんあります。特に有名なのは、チョコレートを使った料理のモレや、独特の風味を持つオアハカチーズ、そしてチョコレートです。その中でも、特に私が感動したのはチョコレートでした。チョコレートはメキシコに深く根付いた伝統的な飲み物で、カカオ発祥地であるメキシコでは日常に欠かせない存在です。街中の市場や家庭で親しまれているだけでなく、スターバックスでもメキシコ独自のチョコレートを味わうことができ、国全体で愛されている飲み物の1つです。メキシコでの生活の中でチョコレートを飲む機会は何度もありましたが、本場オアハカ州にしかない「Mayordomo」というお店のチョコレートは格別でした。一度飲んで以来ハマリ、滞在中に何度も足を運んで味わいました。また、オアハカ滞在中にはさまざまな観光地も訪れました。Puerto Escondido(海)や、古代遺跡群のモンテアルバンなど、オアハカ州ならではの見どころを巡ることができ、歴史や文化を肌で感じる貴重な体験になりました。

そして、この旅の一番の目的は、1年に1度行われる伝統的なお祭り「ゲラゲッツア」を見学することでした。ゲラゲッツアはオアハカ州の先住民族の文化を祝う祭典で、州内の地域を代表する団体が参加し、それぞれの民族舞踊や音楽を披露します。

メイン会場は約11,000人を収容できる大きな野外劇場で、有料席は数か月前に発売されるとすぐに完売してしまいます。そのため、私たちは先着順の無料席を確保するために朝早くから並び、無事に観覧することができました。

私たちは午前の部を観覧しました。午前の部は 10 時に始まり、約 4 時間にわたって行われます。ステージでは、17 の団体の踊り手たちが、それぞれの地域の色鮮やかな衣装をまとい、音楽に合わせて力強く、時に優雅に踊りを披露しました。特に印象的だったのは「パイナップルダンス」で、踊り手たちは頭の上にパイナップルを載せ、バランスを保ちながら軽快にステップを踏みます。その一体感に会場はとても盛り上がっていました。

観客も一緒に手拍子を打ったり、帽子を振ったりして盛り上がり、まるで会場全体が一つの大きな共同体のように感じられました。ほかにも、街中では、朝から夜まで様々なところでパレードなどのイベントが行われており、祭りの熱気を感じることができました。



2. 1 年間のメキシコ生活を通して

この 1 年間は、本当に充実した毎日でした。最初は、日本とは全く違う生活に戸惑い、大変なことも多くありました。しかし振り返ってみると、それ以上に楽しいことや学びがたくさんあり、毎日が新しい発見の連続でした。この経験を通して、私自身も人として大きく成長できたと実感しています。本当に、この研修に応募してよかったと心から思っています。

本研修を通して、メキシコの良さをたくさん知り、メキシコが大好きになりました。街では、目が合うとほとんどの人が笑いかけられます。バスや地下鉄では、お年寄りに席を譲ったり、分からないことを尋ねると優しく教えてくれます。私のような外国人でも、他のメキシコ人と同

じように話しかけてくれます。初めて会った人でも仲良くなると、すぐに「Mi casa es tu casa(私の家はあなたの家)」と言って、いつでも家に来てねと歓迎してくれます。こうした温かさに触れるたびに、メキシコの人々の親しみやすさや心の広さを感じました。

また、年齢や性別に関係なく、自分の好きな服や髪型、メイクを楽しんでいる人が多いことも印象的でした。みんな自分らしさを大切に、自由でのびのびした雰囲気を感じることができました。そして、私自身も「ありのままでいい」と思えるようになり、肩の力を抜いて自分らしく過ごすことができました。



おわりに

最後に、この研修で関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。皆様のご支援と温かい対応のおかげで、安心して充実した研修生活を送ることができました。本研修で得た経験と学びを今後に活かし、広島県とグアナファト州、そして日墨の架け橋となれるよう努めてまいります。